

令和8年度

新野小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○言語活動や体験活動を通して、主体的に学び合い、最後まで粘り強く取り組むことができる授業の構築
○一人ひとりの児童の実態に応じた支援の工夫

校長

大和 利弥

学力向上推進員

山本倫梨子

【各校の取組状況の把握について】

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○与えられた課題にはまじめに取り組む児童が多い。 ●学習の積み重ねが難しく、学力の二極化の傾向がある。 ●語彙が乏しく、自分の考えを適切に表現したり、人の話を最後まで聞いて理解したりすることが苦手な児童がいる。	・当該学年における基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけることができる。 ・正しい学習習慣を身に付け、学習に取り組むことができる。 ・学年相応の語彙を習得し、問題を正確に読み取ったり、先生や友達の話の正しく聞き取ったりすることができる。	・何が書かれているかを捉えさせるため、主語や述語、筆者の考えや事例など、教科書にアンダーラインを入れさせる。 ・朝の活動（はなまるタイム）や家庭学習などで、AIドリルやなどを活用し、振り返り学習や個々に応じた問題を解くことで学習の定着を図る。 ・読解力の基礎となる読書週間を身につけさせる。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○経験したことや考えたことなどを、作文や日記に書き表すことができる。 ●自分の思いや考えを自分の言葉で分かりやすく伝えることが苦手である。 ●どう表現したらよいか自信が持てず発表を控える児童がいる。	・語彙を増やし、自分が伝えたい内容に合う言葉を選んで表現できる。 ・自分の考えと同じところや違うところを見つけながら意見を聞くことができる。 ・自分の考えを分かりやすく伝えることができる。	・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定する。 ・ICTを効果的に活用し、発表や話し合い活動を充実させる。 ・実態に応じたためあてをもたせ、書く・発表する機会を意図的に多く設ける。（テーマ日記・行事作文・学級会・学年発表・学習発表会）			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○各教科の学習に一生懸命取り組むことができる。また、家庭学習にもまじめに取り組むことができる児童が多い。 ●自分から課題を見付けたり、不得意な学習内容に対して、自分から挑戦しようしたりする児童が少ない。	・課題解決に向けていろいろな方法を試しながら自分の力で粘り強く考えることができる。 ・自分の学習状況を振り返り、課題を解決するために苦手なことにも取り組むことができる。	・児童の主体的な体験や活動（タブレットの活用など）を授業に多く取り入れ、意欲的な活動を賞賛する。 ・児童の気づきや考えを大切にしたい授業展開を工夫する。 ・「家庭学習チャレンジ」により、家庭との協力を密にし、自主学習を計画的に取り組むことの定着を図る。			